

第75回全国植樹祭埼玉県準備委員会（第2回） 議事概要

日時：令和3年12月24日（金）10：30～11：30

場所：県庁本庁舎庁議室（オンライン開催）

出席者：別紙出席者名簿のとおり※会議資料参照

1 挨拶

高柳副知事より挨拶

2 議事

本会議を公開とすることが議決された。

（1）第75回全国植樹祭基本構想（素案）について【資料1】

委員からの意見を参考にして基本構想（案）を作成することで了承された。

【主な意見】

委員：○第1章の1の3行目について、「地の利」の後に甲武信岳と荒川の関係と、利根川の関係を入れて、「地の恵み」という言葉を入れてはどうか。

同じく15行目について、皆伐再造林システムは重要ではあるが、全体として長期的な視点で「強靱な県土を保全するための森林整備」という文言を始めに入れてはどうか。

○第2章の1（1）の4行目について、豊富な清流・河川という言い方にすると、埼玉らしい雰囲気が出るのではないか。

○子どもたちへ繋いでいくことについて、全国植樹祭は、小学校の緑の少年団を中心に今まで行われてきたが、小学校がカリキュラム的に忙しくなっているため、参加者が低迷している。一方、幼児教育では、植樹活動が情操教育の発展に良いことが分かってきており、親子で森林に興味を持つということも見えてきている。

このことから、幼児期の子どもから森林に関わる体制や仕組みを作るということを、埼玉の全国植樹祭から展開していけば、埼玉県から全国に展開するというパンチがあるのではないか。

森づくり課長：頂いた御意見を基本構想に反映させたい。

委員：○幼児教育に関連して、私はこの間、大学院生を秩父の山に連れて行き、山や川、ダムなどを見せたが、学生の感想で「今まで何も知らなかったことに自分たちで驚いている」ということを聞くと、埼玉の都市部や東京に住む人に、森についてしっかり知ってもらえるような取組に力点を置くことが必要ではないか。

都市部の人には森から近い所に居ても最も森から遠い所で暮らしていて、自分達の生活の基盤がどうなっているか知らないまま大人になってしまうことが心配である。都市部に住む人達が、近くの森に出かけて時間を過ごしたり、何か作ったり、働きかけたり、学んだりできるような機会になればよいのではないか。

○また、開催場所についてもこのコロナ禍のため、1ヶ所計画してもそこのできるか分からない状況なので、分散した形で計画するのが大事なのではないか。今の状況を見ると、集まって行うことだけに執着し、感染症の制約のため開催できなくなることが最も残念なことなので、そういう場合にも対応できるような構想を今から考えておくべきではないか。

○開催理念の「森林・みどりを共有の財産として守り育て元気な姿で未来の子供たちに繋いでいきます」という、守り育て引き継いでいきたい森は広く、まばらにあるので、開催場所もまばらにするというのは、開催理念と合っているのではないか。

また、例えば、ナラ枯れにより身近な雑木林や公園のナラの一部は恐らく枯れてしまう。ナラ枯れは、薪炭材として使用しなくなったことで、木が大きく古くなりすぎてしまったことが原因なので、ナラを更新する良い機会だと捉え、ナラを伐って使う活動は、アクセスも可能な場所にあるため、とても良いのではないか。枯れた木を置いておくのは危険で邪魔なため、公園では、運搬し焼却処分などをしなければならず経費もかかるだろう。公園であれば近所の人を集め、木工をしたり、たき火で芋を焼いたりなどのレクリエーションができる。薪割りや焚き火は木材の燃料としての価値を体感できるアクティビティである。

○私が以前居た山梨県山中湖村では、現在ナラ枯れがひどく、枯れた木をビニールハウスに入れて高温でカシノナガキクイムシを殺してから、薪にし

て使っているが、都会の場合は、薪を燃やす場所がない。そういった材も使えることが分かる取組ができるとよい。また、その後に近所の人達に苗木を植えてもらえば、それを育てる愛着も出てくるのではないか。人工林の場合は、間伐や主伐をするのであれば、伐採した木を利用するためのサポートや植樹や育林のサポートなどの取組ができるとよい。

○このように「使う」ことを意識し、持続的な利用に結びつけられるように構想に入れるとよりよいのではないか。記念植樹はあるが、記念伐採とか「使う」ことも意識した構想があるとより印象を付けられるのではないか。

森づくり課長：新しい視点として、会場の分散配置の御提案を頂いたので、サテライト会場について、来年度作成する「基本計画」の中で検討する。

委員：○会場を分散して配置することで、都市部の人を含めて多くの人に参加してもらうことができる。また、県ではアプリを使っていろいろな取組をしているが、アプリを使うことで身近なみどりを意識してもらう取組も、今のこの環境であれば取り組みやすいのではないか。

○例えば、既存の埼玉県公式観光サイトで主会場と分散会場をそれぞれ紹介して、開催当日に限らず前後通じて多くの県民が訪れる仕組みを作るのはどうか。現在、日常に隣り合わせた地域を訪れるマイクロツーリズムに注目が集まっており、当日限りの行事ではなく持続性のある効果を見込める。
(メールによる意見)

委員：○基本構想素案第1章の9行目について、埼玉の平地林は、「三富地域の落葉堆肥農法」や、「北本市の森林セラピー基地」もPRできるので入れてはどうか。(メールによる意見)

委員：○基本構想素案第2章の1(1)について、木やみどりには多種多様な生きものが生息し、未来を育む豊かな自然は「いきもの」と共に作り上げられている。多様な生きものが生息する自然環境は、森林だけでなく人にも優しく恩恵を与える。「いきもの」についても「開催理念の背景」に盛り込んでほしい。(メールによる意見)

(2) 開催候補地の検討について【資料2-1~2】

開催候補地選定に係る評価項目(案)について了承され、また、この評価項目に基

づき、引き続き調査をすることが了承された。

【主な意見】

委員：○多くの人がお見えになるので、地域の文化芸能も確かにそうではあるが、地域の「味」の側面、いろいろな郷土料理がある。こういったものをサービスとして提供できる可能性についても評価項目に入れてはどうか。また、安全性の確保は必要である。

○全国植樹祭は、上流・中流・下流と、都市と山村をつなぐという流域全体を繋いだ森づくりの仕組みができれば面白いが、メイン会場は安全性や面積規模あるいは利便性や地域性など特別な場所を選定しなければいけないので、全体構想との繋がりについては今後の課題になるという印象を受けた。

森づくり課長：「味」については、おもてなし広場でお披露目する予定である。安全性については十分配慮していく。

委員：○全国植樹祭に出席されるのは、天皇皇后両陛下、お付きの方々以外は、どういう方が来られるのか。

事務局：中央特別招待者として、国務大臣や国土緑化推進機構の会長、開催県知事及び県議会議長といった方々が30名ほど、県内の県議議会議員や市町村長、県外の国会議員、知事、県議会議長といった特別招待者の方々が540名ほど出席される。また、県内外の一般の招待者2900名ほど参加する予定で、これら招待者の合計が約3500名、残りの1500名は、出演者、本部委員、ボランティアの方々になる。

委員：○招待者について大切なことは、今は国民の皆さんが森づくりに多様に関わっており、企業の皆さんも森づくりに多様に関わっているので、招待に当たっては、その点も考慮した方がよい。